



ISID
INSTITUTE FOR THE STUDY
OF INTERNATIONAL DEVELOPMENT
INSTITUT D'ÉTUDE DU
DÉVELOPPEMENT INTERNATIONAL



McGill

MCGILL UNIVERSITY, PETERSON HALL, ROOM 240, 3460 MCTAVISH ST., MONTREAL, QUEBEC, CANADA H3A 0E6
T: 514-398-3507 . F: 514-398-8432 . E: INFO.ISID@MCGILL.CA . WWW.MCGILL.CA/ISID

2023年5月21日

エリザベス・アルオリオ・オブザエさんに在留特別許可を与えてください。

私はカナダのマギル大学の国際開発学研究所に所属しております、高村加珠恵と申します。ナイジェリア出身のエリザベス・アルオリオ・オブザエさんとは茨城県牛久市にある東日本入国管理センターでの面会活動を通じて知り合いました。エリザベスさんの長年に渡るひたむきな人道的活動に深く感銘を受けた一人でもあります。世界中にはエリザベスさんのようにFGMという若い女性に対する暴力を逃れ、難民として保護を求める女性たちが数多くいます。エリザベスさんはFGM難民として来日してから30年以上も経つにも関わらず、在留資格が認められず、長期収容、そして仮放免という非常に不安定な法的地位の状況にあります。そのような非常に困難な状況にも屈せず、エリザベスさんのように長年外国人の人権保護活動に関わっている方は非常に稀です。エリザベスさんの素晴らしい行動力は、すでにNHKドキュメンタリーや平和賞受賞などにみられるように社会的に高い評価を受けてきました。しかしながら、彼女の仮放免という法的地位の壁だけは解くことができていません。

私は2017年以降、一時帰国の際に茨城県牛久市にある東日本入国管理センターでの面会活動を行ってきました。その際にいつも早朝から同センターの受付ロビーで差し入れや面会申請をするエリザベスさんに何度もお会いしました。足に持病があるにも関わらず、いつも差し入れの品が入ったスーツケースを持ち牛久駅からバスに乗り込むエリザベスさんの姿に何度も遭遇しました。仮放免許可となった難民申請者の手伝いをするエリザベスさんの姿、病気になり日本語の話せない家族に寄り添って病院に向かうエリザベスさんの姿、行き場のない仮放免者に手を差し伸べ、食べ物をシェアするエリザベスさんの

姿。私の知りうるエリザベスさんは、困っている人がいるといってもたってもいられない心の優しい性格の人物です。仮放免という法の壁が様々な形で彼女の生きる日常を縛ってきたにも関わらず、エリザベスさんの人としての強い信念によってこうした壁を乗り越えることができたと思います。

エリザベスさんの人権活動は、日本だけでなく国境を越えてカナダで国際関係学を学び国連やNGOなどで将来活躍することを目標に掲げている学生たちにも強い勇気を与えています。私が教鞭をとるマギル大学では国際法と人権保護について授業で取り上げていますが、いつもエリザベスさんの人道的活動を追ったNHKドキュメンタリー「エリザベス・この世界に愛を」を学生と一緒に観ることにしています。カナダとは地球の正反対の日本に、保護を求める難民たちが暮らしていること、そしてエリザベスさんのように長期にわたり仮放免という不安的な法的地位のない状況にいる人々がいることを、マギル大学の学生たちと話し合いました。エリザベスさんのように法的地位のない難民自身が入管施設に収容されている人々のサポートを行い、その家族に手を差し伸べるという人道的活動をする事例はカナダでも聞いたことがありません。だからこそ、法的壁に屈しないエリザベスさんの人としてのすばらしい行動力が、カナダの学生に大きな勇気を与えるのだと思います。

エリザベスさんは、長期に滞在するFGM難民であるというだけでなく、彼女がこれまで長年日本で行ってきた人道的社会的活動そのものが、法務省が定める在留特別許可となる条件に十分に当てはまるものであります。どうかエリザベスさんに在留特別許可を与えてくださるよう強く日本政府に求めます。

高村加珠恵 *Kazuo Takamura*

マギル大学国際開発学研究所 (Institute for the Study of International Development,
McGill University)

専任講師(Senior Faculty Lecturer)